

吸収源対策森林施業推進活動緊急支援事業で設置した展示林



西予市野村町で行われた林業経営現地研修会

西予市林業研究グループ

| | |
|------|---------|
| 代表者名 | 会長 増田 清 |
| 設立年月 | 平成16年4月 |
| 会員数 | 104名 |

WE LOVE forest!
林業研究グループ



「林業を語る座談会」は10年以上の開催実績



「林業を語る座談会」での講演の様子

■6つの単位林研が加入
西予市は愛媛県南予地域のほぼ中央に位置し、水産業、農林業、畜産業等、多彩な第一次産業が営まれる地域です。もともと林業・林産物が盛んな地域で、人工林は「宇和ヒノキ」で代表されるようにヒノキの割合が高く、8・9歳級を中心に蓄積も充実してきています。市内2箇所の民間原木市場では地元産材が取引され、隣接する八幡浜市・大洲市も含めて大規模の国産材製材工場が集積し、本県の林業・木材産業において主要な地位を占めています。

西予市林業研究グループの前身は、昭和30年代に旧東宇和郡4町の林研グループのまとめ役で結成

された「東宇和林業研究グループ連絡協議会」です。平成16年の市町合併により再編成・名称変更をしました。現在、単位林研は6つ、会員は総数104名を擁しており、愛媛県林業研究グループ連絡協議会と各単位林研とのパイプ役や、事業の企画・調整、収支管理等の役割を担っています。

会員は農林業を営む方が多く、専業林家は5名程度で、県林研青年会議会員や第三セクターの林業事業体からの若手の入会者もあります。

■持ち回りで座談会・研修会開催
グループ活動の中で特筆すべきものに、10年以上も続き伝統化している「林業を語る座談会」と

『林業新知識』2009年9月号

をいただいた後、参加者全員で見交換を実施しています。例年、50名程度の参加者があり、一家言のある会員が多いので議論が熱を帯びてきます。併せて担当林研の地域において現地研修会を開催しています。現場の選定や準備運営も担当林研に任されており、林研会員自らが講師を務め、作業を演ずる場合もあります。各地域の森林整備状況を見ながら、会員相互の情報交換や親交を深める場としても重要な役割を果たしています。

■地域の「元気」は林研から

さらに当グループでは、将来の林業後継者確保を目指して、単位林研が地元小中学校と連携し、森林・林業教室を開催しています。これらの事業は、国から全林研

県林研を経由する補助事業で、「吸収源対策森林施業推進活動緊急支援事業」等を活用して実施しています。



地元小中学校では木工の指導も行う

また、単位林研において革新的林業技術の研究が続けられ、会員が開発したヒノキの挿し木技術、新しい育種法は、全国に普及しています。クロンヒノキ「神光檜」の作出者、「天王檜」の登録者は、単位林研の会員です。地域には、林業先進地として全国各地から、視察者・研修者が訪れています。

現在、アメリカ発の金融危機後、世界的な景気後退となり、木材生産コスト削減の努力を上回る勢いで木材価格が下落し、地域林業の存立が根底から揺さぶられています。今こそ林研グループが森林所有者の先導役となり、苦境打開の道を探ることが求められています。(南予地方局八幡浜支局 森林林業課森林活用係長 山内博史)